着物着用による生活意識の変遷に関する研究
-衣服を基にした消費生活の見直しを目指して-

近藤隆二郎[1]・玉井郁圭[2]

[1]正会員　滋賀県立大学准教授　環境科学部環境政策・計画学科(〒522-8533 彦根市八坂町 2500)
E-mail:rcon@ses.usp.ac.jp
[2]滋賀県立大学　環境科学部　環境政策・計画学科(〒522-8533 彦根市八坂町 2500)

近年，衣服の流行が次々と代わり，ファストファッションと呼ばれる安くて使い捨てが可能な衣料が広がりを見せ，大量生産・消費・廃棄が深刻化している．本研究では，そのような衣服の消費を見直すきっかけとして，日本古来の伝統服である着物に着目し，着用者の日常生活での行動や意識を追った．手法としては，着用者のブログに着目し，記事を話題で分類してその構造を調査した．

ブログランキング上位の着用者３名と，募集による立候補者３名の計６名のブログを１年間にわたり調査し，またアンケートによって対象者の属性や着物着用に関する項目を比較した．対象ごとの特徴や着用者のパターンを明らかにし，着物着用と環境意識との関連性を，「身に纏うものを見直す」という視点から提言する．

Key Words : *kimono, wearer, blog, topic*

1. 背景・論点

(1) 環境学の視点から見た衣(clothing)

社会の経済活動が高度化するにつれ，資源採取から廃棄にいたる各段階での環境への負荷が著しくなった [1]．このような状況において，住・食に比べて衣(Clothing)が環境問題のテーマとして扱われることは少ない．日本の繊維消費量は一人当たり 20kg/年を超え，世界第 7 位である [2]．『環境学総論』[3]によると，本来衣服着用の目的は，①体温の調節，②身体の保護，③身体清潔の保持，④装飾として美しく見せる，権威をつけるため，などである．しかし現代の生活では，目的④が重要視される傾向が強いために，衣服の消費行動は拡大しやすく抑えにくい状態であり，環境配慮をすることが難しいと捉えられやすい．

(2) 着物への着目

そこで本研究では，繊維の製造から廃棄までの過程を図化した「衣料のライフサイクル」を考え(**図-1**)，その中で環境配慮が可能と考えられる項目を 8 つ挙げると共に，それらの項目の性質を元々備えるとされる「着物」に着目した(**表-1**).

表-1　着物に備わる性質(番号は図-1 に対応)

	衣料の環境配慮	着物の性質
①	自然素材の利用	絹・綿・麻・ウールなどの天然素材が主
②	自然染め	植物染料・顔料の使用
③	無駄のない加工	和裁は端切れが出ず何度でも仕立て直しが可能
④	地産地消	全国に染物・織物の産地が併せて 100 以上あり，半数以上が伝統工芸品指定品目
⑤	長期的な利用	サイズ調整が容易・流行がない
⑥	リユース	仕立て直し・染め直し・世代間でも譲渡できる
⑦	リサイクル	着物→帯・羽織・小物→おしめ・雑巾
⑧	リデュース	譲渡しやすい・息が長い

着物は日本の風土と生活様式に合わせて進化を続けてきた衣服である．現在一般的に知られている着用の決まりは明治時代に確立したものとされる [4]が，普段着として着用される着物は現在も生活様式に合わせて変化を続けている．

着物に関する既住研究には次のようなものがある．

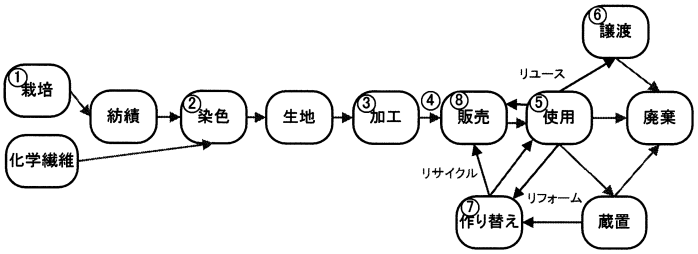


図-1 衣料のライフサイクル

「和服における着崩れについての考察」[1]では，和服着用時の着崩れの要因の一つとして，着物サイズと体格・体型との不一致があると想定し，着装実験によって，着崩れは体格・体型といった身体に合わせたものがより少ない事を確認した.「暑熱環境下における夏季和装時の衣服内室温度」[6]では，夏季の和装は,その構造上開口部は放熱の機能を果たし,特に大腿部の下降開口部にその影響が大きく見られることを示した.「女子大学生の伝統服に関する意識と行動—日本とタイの比較—」[7]では，人びとの慣習から伝統服が遠ざかる中で最近改めて伝統服が見直されつつあるという背景のもと，日本とタイの伝統服の構造について明らかにし，更に両国の女子大学生を対象に,伝統服に対する意識や行動について,その共通点・相違点に着目しつつ，現代の若者の伝統服に対するイメージや伝統服着用とライフスタイルの関係性について明らかにしている．これら着物に関する研究は，造形やデザインや縫製などその構造に関するものが主であり，その他に他国の伝統服との違いや昔との違いを考察したものがある．

和装時には洋装時とは異なる意識や行動が人々に起きる可能性があると考え，本研究では着物着用者の意識・行動に焦点を当てる．日常生活の中での意識や行動を探るため，分析対象には着物着用者が運営するブログを用いる．

2. 研究の目的・意義

本研究の目的を以下に示す.

① 着物着用者のブログ分析により，着物着用に基づく着用生活の性質を示す
② ブログ分析およびアンケート調査より得た対象者の特徴より，着物着用者の生活における意識・行動を明らかにする
③ 日常生活に着物を組み込む着用者の意識・行動より，衣・身体を基点とした消費生活の見直しを提案する

以上の目的を達成する事は，着物を用いた生活の魅力を再認識することにより，衣から現代の生活を見直すきっかけとなる.

本研究の意義は，着物着用生活と生活との関係を導き出し，環境配慮のひとつの視点として提唱することで，着物への注目を促すことである.さらに,大量にモノを消費することなく快適性や感覚に富んだ生活を営むことへの入り口になりうることを主張する.

3. 研究方法

(1) 対象の選定

a) 「びぃめ～る[8]」にて対象者を募集

滋賀県内の主婦読者層が多いとされるフリーペーパー『びぃめ～る』(隔月で県内全域 2.2 万部無料配布）において，研究の概要を説明したうえで分析の対象者を募った．応募者は，本研究の趣旨に興味を持ったことにより，環境への意識・意欲も高いと考えられ，着物着用と環境意識のつながりを見つけやすいことを期待した(表-2 対象 4～6).

表-2 対象一覧[9)~14)]

対象	ブログ名	性別	年代	着用暦	着用頻度
1	ほぼ日刊？着物新聞	女	30代	2年	週1以上
2	キモノは別腹	女	40代	23年	週2～3
3	着物で一息♪ﾃｨｰﾀｲﾑ	女	40代	15年	週1以上
4	ちくちくきもの	女	20代	2年	週3以上
5	丁髷 髪切り職人	男	30代	4年	毎日
6	お気楽着物暮らし	女	30代	4年	毎日

b) ブログランキング

2009 年 1 月の時点でブログランキングの上位にあったブログの中から，記事に仕事の宣伝等の性格が強くないものを選定した．他者が閲覧する機会が多いこと，更新頻度が高いことを期待してブログランキングを使用した．対象数は募集によって決まったものに合わせ 3 つとする．(表-2 対象 1～3)

(2) アンケート調査

対象者に対し，属性および着物着用に関する情報等についてアンケート調査を行う．得たデータはブログでの話題の特徴と比較し，個人の特徴を出すと共に着物着用者の心理・行動の共通点を導き出す.

(3) ブログ分析手順

分析の対象期間は，対象の多くが研究実施時点でブログを付け始めて 2 年を経過していないことを考慮し，季節を網羅し，かつ研究の実施期間において

最新データを得るために2008/9～2009/8の一年間とする．分析の手順は以下の通りである．

- 記事ごとに登場する話題を分類する（話題項目は詳細にし，各対象者の特性を出しやすくする）
- 話題項目は８つのカテゴリーに分類した(表-3)

表-3 話題項目のカテゴリー(左列)と各対象の話題項目数

カテゴリー＼対象	1	2	3	4	5	6
着物(物)	9	8	8	8	9	8
着物(動作・意識)	12	8	9	10	7	7
和(日本)	5	6	4	4	4	1
自然	4	4	4	3	4	4
食物	7	3	3	2	5	2
生活行動	6	5	6	7	6	6
交流・外出	6	7	7	7	5	4
趣味・その他	4	4	3	4	6	4

話題分類…ブログは，対象者によって１日に何度も更新する場合もあるため，その場合それらはそれぞれ別の記事として扱う．ブログの話題を記事ごとに手作業で細かく分類した結果，各対象で45～50の話題に分類することができた．出来る限り同じ項目を用いているが，対象者によって異なる話題もあるので，使用した話題は71種類になった．話題の種類によってカテゴリーに分類したところ，「着物(物)」「着物(動作・意識)」「和(日本)」「自然」「食物」「生活行動」「交流・外出」「趣味・その他」の８つのカテゴリーに分けることが出来た．着物関連の話題は特に細かく分類したため種類が多いので「着物(物)」と「着物(動作・意識)」に分けた．着物以外の趣味や記事によく登場するものについては「趣味・その他」に分類した．

各記事ごとの分類は表のように1/0でデータの入力を行う．同じ記事において同じ話題を何度も扱っている場合も「1」とする．

- 季節ごとに話題想起率[15]を算出する

$$\text{ある話題の話題想起率}(\%) = \frac{\text{ある話題が出現した回数(話題出現数)}}{\text{全記事数}} \times 100$$

- 季節(9～11，12～2，3～5，6～8月)を時系列的な区切りとして，想起率を元に出した話題想起率と話題間のつながりを，ソシオグラムを用いて図化する(話題相関図)[16]．
- 表現の中で着物着用や生活に関して対象者の考えが表れている部分を抜粋し，考察する

(4) 考察

分析および考察については，各対象者について行ったのち対象間で比較する．

各対象者の個別分析については話題相関図と話題想起率にどのような特徴があるかを考察し，表現の内容やアンケートの結果と関連付けて着物着用と環境意識の関係性について考察していく．

対象間の比較については，対象のブログに共通して出てきた話題について着用者ごとの話題想起率を比較し，得られた結果および個人の分析結果とアンケートの回答との関係を明らかにして着用者のパターンを探る．

4. ブログ分析結果

表-4 各ブログの対象期間における記事数

対象	1	2	3	4	5	6	計
9～11月	69	72	88	76	36		341
12～2月	69	81	88	68	49		355
3～5月	52	67	89	73	54	17	352
6～8月	54	72	82	74	62	16	360
計	244	292	347	291	201	33	1408

(1) 話題出現率と話題想起率

対象１「ほぼ日刊？着物新聞」：想起率の偏りが少なく，多くの話題についてバランスよく記事を展開している．時期を経るごとに「着物」の話題が減り「和(日本)」の話題が増加する特徴がある．

対象２「キモノは別腹」：ブログの更新頻度には変化が無いのに話題出現数が減ることから，ひとつの記事で扱う話題の数が減ったことがわかる．

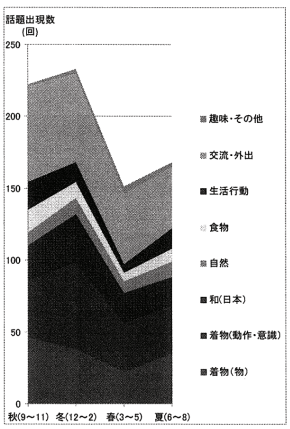


図-2「キモノは別腹」カテゴリ別話題出現数

対象 3「着物で一息♪ティータイム」:「着物(物)」カテゴリーの話題が徐々に減る．それに代わって「手作り」「再利用」の話題が増えるが，徐々に「再利用」に意識が向くためである．

対象 4「ちくちくきもの」: 話題出現数・想起率共に大きな変化はなく，話題が安定しているブログであるといえる．着物着用開始から 1 年を超えたころから「考え」「手縫い」の話題が登場する．

対象 5「丁髷 髪切り職人」: 他の対象では「着物」の話題が平均で 50%程度の想起率で登場するのに対し，この対象者では 30%程度である．性別が関係しているとも考えられる．

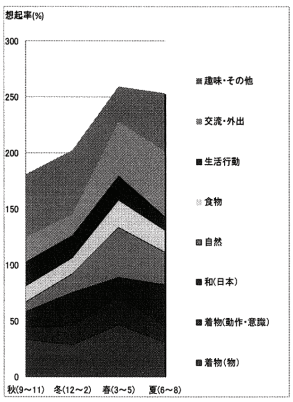


図-3「丁髷 髪切り職人」カテゴリ別話題想起率

対象 6「お気楽着物暮らし」: 分析対象期間が他の対象者の半分であるが，その中で増える話題は「生地・素材」「道具」，減る話題は「色」「柄」と「自然」カテゴリーである．

(2) 話題相関図

対象 1「ほぼ日刊？着物新聞」: 話題が豊富で，ひとつの記事で扱う話題も多いので，相関図が複雑である．冬に小物を販売し始め，「他の着用者」との交流が深まる．

対象 2「キモノは別腹」: ひとつの記事で扱う話題数が減るため，つながりの線も減る．頻繁に登場しない話題同士が同じ生地に登場することが多い．

対象 3「着物で一息♪ティータイム」: 話題がいくつかのグループに分かれている．同じ記事で登場する話題がある程度固定されている．

対象 4「ちくちくきもの」:「着物」「手順」「手作り」のつながりが常に強いが，そこから派生する話題のつながりが徐々に増える．

対象 5「丁髷 髪切り職人」: 各話題がつながる数が少なく，話題に一貫性がある．

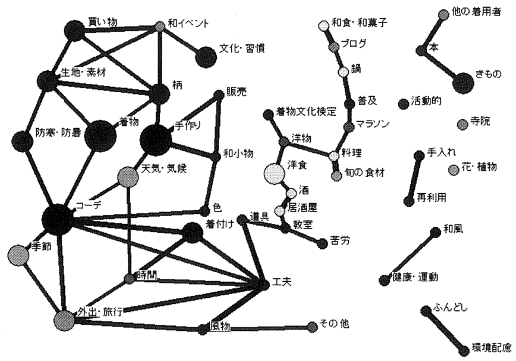


図-4「ほぼ日刊？着物新聞」話題相関図　冬

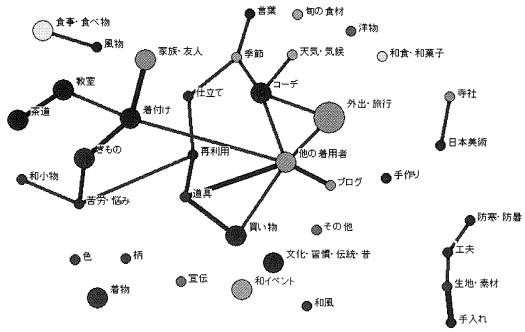


図-5「キモノは別腹」話題相関図　冬

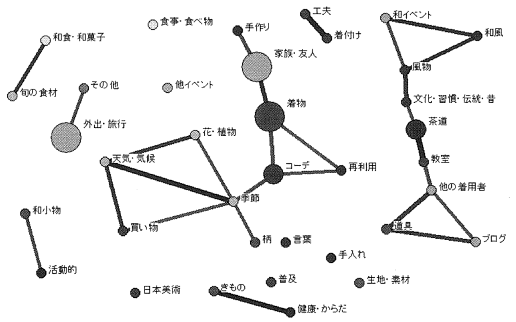


図-6「キモノは別腹」話題相関図　夏

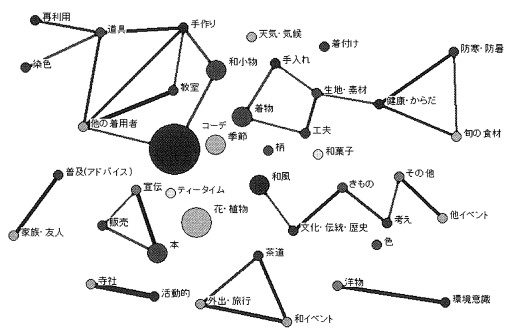


図-7「着物で一息♪ティータイム」話題相関図　秋

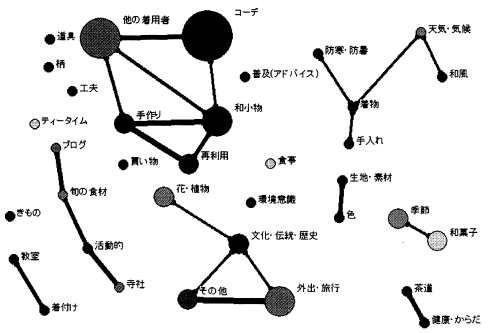


図-8「着物で一息♪ティータイム」話題相関図　夏

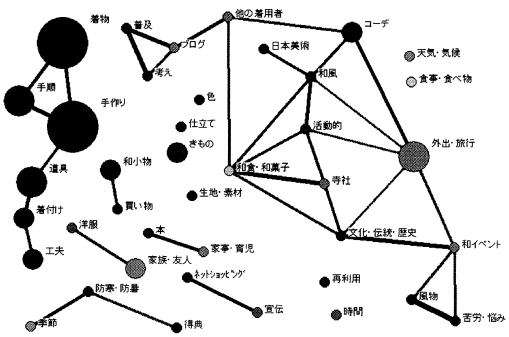


図-9「ちくちくきもの」話題相関図　秋

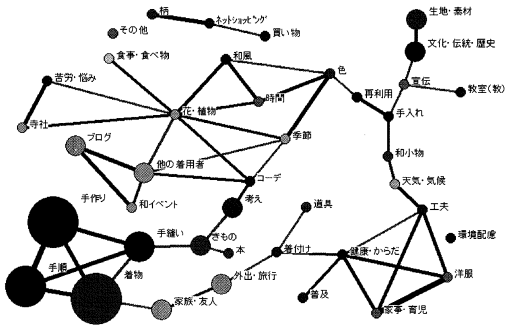


図-10「ちくちくきもの」話題相関図　春

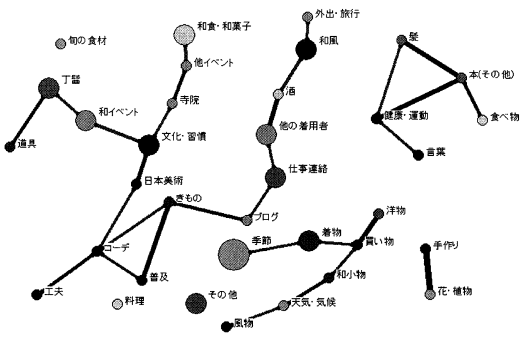


図-11「丁髷 髪切り職人」話題相関図　夏

対象 6「お気楽着物暮らし」:「着物」や「自然」カテゴリーの多くの話題が互いにつながり，多角形を形成している．

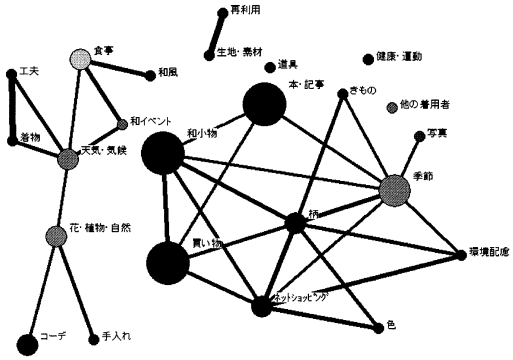


図-12「お気楽着物暮らし」話題相関図　春

(3) 対象の考えが表れている表現

多くの対象で見られたのが「着物を着るようになってから，花や食べ物も，季節のものに目が行くようになり，発見が多くて楽しい」(対象 1, 2008_9_23)のように，着物を着るようになってから視点や感覚が変わったことを挙げている．また，「30 年以上も前の着物が，袖を通せば今も生き生きと蘇る」(対象 3，2008_11_23)のように着物の息の長い性質に対する表現や，物を作ったり再利用するといった表現も多い.「こんなサステナブルな衣服が環境っていう視点から見直されないってのが勿体無い」(対象 4，2009_2_5)のように対象者の中には「着物」を環境問題対策のひとつと捉えている者もいる．

5. 対象比較による着用者の共通点とパターン

(1)着物着用と衣服消費量

洋服の入手数・着物着用頻度を比較すると，対象者の洋服消費量は,職業に左右されると考えられる．また，着物および洋服の入手数は**表-4** の着物を着る目的とも関係しており，以下の傾向がある．

- ファッションや趣味で着物を着用する者(対象 1・3)は洋服も着物も同様に消費する
- 「長く着られる」という着物の性質を着用目的にする者(対象 2・4・5・6)は衣服は着物だけでいいと考える傾向があり洋服も着物も新品のものはほとんど購入しない

表-5　対象者の着物を着る目的

対象１	ファッションとして
対象２	好きだから・長い付き合いのできる衣類だから
対象３	気分転換
対象４	楽しい・体調が良くなる
対象５	普段着として
対象６	普段着として

(2)　季節の特徴

冬は最もコーディネイトの幅が広がる季節であり，着用機会も増えるので「着物(動作・意識)」カテゴリーや「交流」カテゴリーの話題が増える．着用には，防寒などの着方に関するものと，素材など着物や小物そのもの双方に，工夫を施す余地がある．これらの特徴は話題相関図が複雑化することからもうかがえ，特に着用歴の浅い者に顕著である．

一方，夏は着物や浴衣の色柄や素材が単一で，着物着用そのものも簡素になることと，話題相関図が単純化することが関係していると考えられる．しかし暑さを防止したり熱を抜く方法などの話題が増え，「工夫」の話題は冬と同様に多くの話題とのつながりが見られる．

着物には，季節によるきまりに加え，色や柄によって季節感を表現できるという特性がある．対象者も，季節に合わせて着物着用を楽しむ行動が見られる．中でも春は特に季節を意識して着物着用をしていることが話題相関図から明らかになった．

表６　季節によって想起率が変化する話題

季節	想起率が高くなる話題	想起率が低くなる話題
秋		
冬	着付け，防寒・防暑，買い物，風物	
春	買い物，花・植物，	
夏	着付け，風物，	道具，色，柄，買い物

(3)　「和」へのこだわり

対象者は「和風」や「文化・伝統・歴史」といった日本らしいものの話題をよく扱い，それらに興味があることがわかる．「着物」か「和風」か，どちらへの興味が先に湧いたかに関わらず，着物を着ると一層日本の文化や伝統など着物が似合う「背景」「空間」「雰囲気」に興味が拡がると言える．

どの対象にも着物を着用することで感覚が洗練され素材や季節感，色柄などに敏感になるといった表現があり，着物着用によって日本らしさを感覚で捉えられるようになると言える．

(4)　手作り・再利用

「手作り」の話題は一様に多いが，対象者は「物を作ること」にも「手作りの物」にも興味があり，着物に限らず「再利用」をしたり物を大切に長く使う行動が共通して見られる．対象者のほとんどが「もの作り」や「再利用」を生活の中で行っている．洋服入手時はほぼ 100%新品購入であるのに着物では手作りやリサイクル品がほとんどであることからも，「着物を着用すること」と「手作り」や「再利用」が関係していることがわかる(表-5).

表７　衣服入手方法の割合

［手作り：新品購入：古着購入：譲受］

対象	着物	洋服
1	5：5：0：0	0：10：0：0
2	0.5：1：7：1.5	0.5：6：2.5：1
3	4：2：0：4	0：10：0：0
4	7：2：0：1	0：10：0：0
5	0：1：8：1	0：10：0：0
6	0：1：8：1	0：10：0：0

(5)　身体

「健康・身体」の話題から，着物着用によって身体に現れた変化として「代謝が上がるということ」，「姿勢や所作が変わること」が挙げられる．また，服に身体を合わせる洋服とは異なり，布を身体に沿わせて着用する着物という衣服が身体に優しいということもわかる．布を身体に沿わせて着用する衣服は，着物に限らずインドの「サリー」やブータンの「キラ」など他国の民族衣装にも共通している．

6. 結論

(1)　着物着用者の環境意識

ブログの記事では「環境意識」に分類される話題は少なかった．しかし意識していなくても「再利用」等の行動が着物着用生活には内在する．また着物を着ると「着物が似合う生活」をしたくなり，食物や生活空間に季節感を感じるものや日本らしいものを求めるようになる．

そもそも衣服の大量消費はファストファッションの文化によるもので，「流行が次々に変わること」「安く衣服が買えること」による．そのような性質とは真逆の性質を持つのが着物着用生活である．

対象 4 からは「ファストファッションに疲れた」「そんな若い世代の女性はたくさんいるはずで，その一部が着物着用を始めている」という意見を得た

が，対象5・6でも「着物を着るようになって洋服には何もいい所が無いことに気付いた」という意見を得た．着物を着用することによって客観的に見ることで洋服の無駄な部分に気付くと言える．

(2) 日常生活に着物を組み込むこと

環境問題は人間が利便性を求めて研究・開発を繰り返した結果の副作用である．食物アレルギーや花粉症など，経済発展と技術開発で人間が作り出したものによって生まれたとされる疾病もある．身体に直接触れるものを見直すことでこれらは改善される場合もある．

本研究の対象者にも，着物以外にも自然素材にこだわったり，化粧品を天然由来の原料で手作りするといった生活行動が見られる．素材にこだわる生活，健康にこだわる生活のひとつが着物着用生活である．

日本人は既に洋服での生活に慣れて，それがあたかも必然的でもっとも快適な生活であるように感じている．しかし対象者から得た意見では洋服には「身体が冷える」「窮屈」「流行があって数年で着たくなくなる」「個性に欠ける」「色や質感に鈍感になる」といった欠点がある．

身体に優しい生活をすることが豊かな感性を生むことにも環境に負荷を与えないことにも繋がる．

(3) 本研究の限界と課題

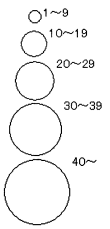
本研究のブログ分析(話題の分類・話題の抽出)方法は，筆者の主観で行うしかない．基準を設けても主観が抜けきらず，「何度行っても」「誰が行っても」同じ結果が出るとは言えない．第三者の立場で行える分析方法の検討が必要である．

また，研究の対象者が少なく，属性も偏っていた．サンプル数を上げ，男女・年代・職業・家族構成など様々な属性比較を行えることが望ましい．

謝辞：**研究の**対象者の皆様には，本研究にご協力していただきましたこと心より感謝申し上げます．

参考文献

1) 杉本弘子:衣服のリユース-着物の創造的なリユースの視点から-,日本衣服学会誌,48(1),17-22(2004)
2) 日本科学繊維協会統計資料
＜http://www.jcfa.gr.jp/f7-stat/statistics.html＞,2008_11_28
3) 植田栄二 他：環境学総論-地球・社会・思想・情報・メディア-,同文舘,27-28(2001)
4) 小池三枝 他：:概説 日本服飾史,光生館(2000)
5) 仲村洋子,羽生京子：和服における着崩れについての考察,和洋女子大学紀要,43,37-51,2003
6) 数金昭見 笹本信子: 暑熱環境下における夏季和装着装時の衣服内湿温度,日本衣服学会誌,49(1),39-45,2005
7) 益本仁雄：女子大学生の伝統服に関する意識と行動—日本とタイの比較—,日本家政学会誌,58(12),771-780,2007
8) 元気情報発信基地びぃめ～る
＜http://www.bmail.gr.jp/＞,2009_4_26
9) ほぼ日刊？着物新聞
＜http://plaza.rakuten.co.jp/mmarri/＞,2010_3_1
10) キモノは別腹
＜http://studiokuubetsubara.blog69.fc2.com/＞,2010_3_1
11) 着物で一息♪ティータイム
＜http://chizukokanda.blog5.fc2.com/＞,2010_3_1
12) ちくちくきもの
＜http://plaza.rakuten.co.jp/tikutikukimono/profile/＞,2010_3_1
13) 丁髷 髪切り職人
＜http://peluquero.shiga-saku.net/＞,2010_3_1
14) お気楽着物暮らし
＜http://plaza.rakuten.co.jp/okirakukimono/＞,2010_3_1
15) 武内　孝：居住地と環境学習充実度からみた小学校における体験型環境学習のあり方に関する研究－『湖の子』を事例として－,滋賀県立大学学士論文,15(2001)
16) ソシオグラムで話題の相関関係を，フリーソフト「Ucinet 6 for Windows」を用いて図表化した．この際，それぞれの項目(本研究においては「話題」)ごとのアイコンの大きさや色や位置，つながりを示す線の太さや色やどの程度示すかについては手動で変更した．本研究では，各話題を丸いアイコンで示し，カテゴリーによって色を，想起率によって大きさを変えた．アイコンをつなぐ線は，話題のつながりを示し，つながりが強いほど線を太くした．なお，対象ごとの相関図では，話題のつながりの強さについて，14以下のものは示さず，15～19を緑，20～24を赤紫，25以上を黒で示し，全対象を併せた相関図では9以下のつながりは示さず，10～14を緑，15～19を赤紫，20以上を黒で示した．ソシオグラムは本来人間関係あるいは集団構造を図表で表示したものであるが，本研究の話題相関図にも適用できると考えた．



RESEARCH ON TRANSITION OF EVERYDAY CONSCIOUSNESS BY KIMONO WEARING

– AIM AT THE REVIEW OF THE CONSUMPTION LIFE BASED ON CLOTHES –

Ayaka TAMAI, Ryujiro KONDO

The fashion of clothes takes the place one after another, clothes that it is cheap and disposable is possible that are called a fast fashion show the extension, and mass production, consumption, and abandonment have become aggravated in recent years. In the present study, it paid attention to the kimono that was old tradition clothes of Japan as a chance to review the consumption of such clothes, and the action and consideration in wearer's daily life were chased. As the technique, it paid attention to wearer's blog, the article was classified by the topic, and the structure was investigated.

The blog of three candidates of six people in total by recruitment was investigated for one year with three wearers of the high rank of the blog ranking and object person's attribute and the item concerning the kimono wearing were compared by the questionnaire. The feature of each object and wearer's pattern are clarified, and it proposes the relativity of the kimono wearing and environment awareness from the aspect "The one worn to the body is reviewed".